

2023年度WS・WSA主催国際大会選考基準

【カテゴリ】

- ・ジュニア部門は、選手権大会開催年の12月31日時点で15から18歳の選手である。
- ・シニア部門は、選手権大会開催年の12月31日時点で19歳以上の選手である。
- ・マスター部門は、選手権大会開催年の12月31日時点で35歳以上の選手である。
マスター部門では、以下の4つの部門に分類される。
 - ・40歳未満(35歳以上39歳以下)
 - ・50歳未満(40歳以上49歳以下)
 - ・60歳未満(50歳以上59歳以下)
 - ・60歳以上

世界・大陸間選手権大会のシニア部門に参加したジュニア選手は、今後、他選手権大会のジュニア部門に参加することはできない。

世界・大陸間選手権大会のマスター部門に参加したシニア選手は、今後、他選手権大会のシニア部門に参加することはできない。

世界選手権大会に出場できる最小年齢は、選手権大会開催年の12月31日時点で、15歳の選手である。

【日本代表選手選考会への参加基準】

- ・適応年である2023年のみ初年度登録を許可し、以降ワールドスケートジャパン主催大会該当カテゴリへの2カ年以上連続出場していること(ジュニアからシニアにカテゴリ変更は連続出場を継続して数える)
- ・全日本トラックかつロード選手権大会かそれと同等以上(WORLD SKATE審判員またはワールドスケートジャパン運営のものに限る)の大会において、一定以上の成績(後述: 選考大会への参加基準タイム)を納めていること
- ・前年度のペナルティ点数(後述: ペナルティ加算)が5点以上加算されていないこと

上記を満たした選手にワールドスケートジャパンスピード委員会から別途日本代表選手選考会への案内を展開する。

【日本代表選手決定の方法】

国際競技会への派遣選手選考は、以下の基準に基づき、スピード委員会強化部が推薦し、スピード委員会承認することによって決定する。

【派遣選手団の編成方針】

1. 派遣基準記録を突破していること。

2. 日本代表として十分な活躍が期待できる種目を優先的に選考する。
3. 日本代表として後進の育成に尽力する意欲のある選手を優先的に選考する。
4. 国際規則・行動規範を遵守し、活力あるワールドスケートジャパンを代表するに相応しい選手・役員をもって編成する。

【出場に関する制限】

1.
 - ・ 各国際競技会の参加標準記録（後述: 各国際協議会の参加基準記録）
 - ・ 新型コロナウイルス（COVID-19）に関連する国や関係団体からの制限
 - ・ 外務省のホームページに記載されている危険情報がレベル2以上を有する国は派遣しない
 - ・ 外務省のホームページに記載されている危険情報がレベル1の都市へは帯同可能な役員がない場合派遣しない
 - ・ 役員の帯同がない場合は如何なる国であってもジュニアの選手は派遣しない
2.
 - ・ ワールドスケートジャパンスピード委員会による派遣標準記録(後述: 派遣標準記録)を設定し、派遣標準記録以内の選手を派遣対象(全日本選手権大会・日本代表選手選考会)
 - ・ 派遣標準記録を突破していても該当種目1位の者のタイムから1%以上の遅れをとった場合派遣対象から外すものとする(全日本選手権大会)。ただし日本代表選手選考会で選考される可能性はある。

とする。

【特記事項】

- ・ 各国際競技会において、日本の種目出場枠に空きが生じている場合、当該派遣選手団のワールドスケートジャパンスピード委員長及び強化部長の責任の下、当該派遣選手団の中から出場可能な選手を追加でエントリーすることができる。この場合、当該種目の派遣標準記録以内であるかどうかは問わない。
- ・ 各種目の補欠は、選考時点のナショナルコーチ、ワールドスケートジャパンスピード委員長及び強化部長が、国際競技会での活躍を前提とした総合的な検討を加えながら、当該派遣選手団の中から出場可能な選手を選考する。
- ・ World Skate の参加要項等に変更があった場合は、それに準じて選考方法等を再検討し変更する場合がある。
- ・ 各国際競技会への派遣選手選考において、対象競技会にエントリーしているスピード委員がいた場合は、これを選考委員会のメンバーから除外し、選考を行う。
- ・ 本選考基準において、ナショナルコーチ、ワールドスケートジャパンスピード委員長及び強化部長の協議による選考を定めている場合において意見の一致に至らなかった場合は、多数決の方法をもって決する。また、ここでの選考は、選考委員会の出席者（選考の対象とされる選手と同所属や担当コーチなどといった関係者を除く）の3分の2以上の多数をもって変更することができる。
- ・ 代表選手の決定後、ケガや病気などによって大会への参加が困難だと判断された場合は、選考時点のナショナルコーチ、ワールドスケートジャパンスピード委員長及び強化部長の協議により、派遣リザーブリストに登録をされた選手と入れ替える場合がある。その場合、スポーツドクターの診断・見解を参考に検討する。

・ 選考対象者が、新型コロナウイルス（COVID-19）による影響（感染や偽陽性判定、濃厚接触者認定、熱発による感染疑い、国際的な移動に伴う規制等による隔離や行動制限）により、本選考基準による適正な選考が著しく妨げられたと認められた場合は、スピード委員会の協議によって、下記選考基準の関連する部分に変更される場合がある。

【日本代表選考方針】

国際大会においてメダル取得を念頭に、選手自身の成績並びに後進の育成において日本代表選手団として十分な活躍が期待できる選手の中から選考する。

【派遣可能人数】

各カテゴリ0~16名(代表選手候補が多い場合はロード1Lap, 10000m, 15000mはトラック競技で選考する)

【枠数】

男子シニア：

200m デュアルタイムトライアル(2)
500m + D スプリントトーナメント (2)
1000m スプリントトーナメント (2)
5000m ポイントレース(2)
10000m ポイントエリミネーション (2)
10000m エリミネーション (2)
3000m リレー (3+補欠1)

100m スプリントトーナメント (2)
1Lap (2)
10000m ポイントエリミネーション (2)
15000m エリミネーション (2)

女子シニア：

200m デュアルタイムトライアル(2)
500m スプリントトーナメント (2)
1000m スプリントトーナメント (2)
5000m ポイントレース(2)
10000m ポイントエリミネーション (2)
10000m エリミネーション (2)
3000m リレー (3+補欠1)

100m スプリントトーナメント (2)
1Lap (2)
10000m ポイントエリミネーション (2)

15000m エリミネーション (2)

男子ジュニア：

200m デュアルタイムトライアル(2)
500m スプリントトーナメント (2)
1000m スプリントトーナメント (2)
5000m ポイントレース(2)
10000m ポイントエリミネーション (2)
10000m エリミネーション (2)
3000m リレー (3+補欠1)

100m スプリントトーナメント (2)
1Lap (2)
10000m ポイントエリミネーション (2)
15000m エリミネーション (2)

女子ジュニア：

200m デュアルタイムトライアル(2)
500m スプリントトーナメント (2)
1000m スプリントトーナメント (2)
5000m ポイントレース(2)
10000m ポイントエリミネーション (2)
10000m エリミネーション (2)
3000m リレー (3+補欠1)

100m スプリントトーナメント (2)
1Lap (2)
10000m ポイントエリミネーション (2)
15000m エリミネーション (2)

【日本代表選考基準】

対象競技会：

1. 全日本トラックレース選手権大会
2. 全日本トラック・ロード選手権大会と同等以上の大会
3. 日本代表選手選考会(トラック)
4. 日本代表選手選考会(ロード)

※ WORLD SKATE 審判員またはワールドスケートジャパン審判員の運営するものに限る。

※ 日本代表選手選考会は全種目タイムトライアルレースとする。

※ 上記の理由としては、レースではタイムが出せないという選手が過去に存在したため。

※ 上記1、2の参加有無は問うものの、順位は問わないものとする。

(1) 出場枠は、対象競技会における当該種目の成績が派遣標準記録のタイムをクリアしている選手の中で順位に従い、最上位者から順に選考する。

(2) トラック10000m ポイントエリミネーションレース・エリミネーションレース の出場枠のうち、派遣標準記録の選考タイムをクリアしているものの中で最上位者から順に選考

する（トラックの10000m ポイントエリミネーションレース・エリミネーションレースに限り、1競技で派遣可否を選考する）。

(3) 男女リレーの正選手各3名と補欠選手各1名は、対象競技会にエントリーしている選手の中から、選考時点のナショナルコーチ、ワールドスケートジャパンスピード委員長及び強化部長の協議により、本連盟主催の強化合宿等におけるリレー練習での力量についての総合的な検討を加えながら、選考する。また、必要に応じて、当該派遣選手団の中から出場可能な選手1名を補欠に加えることができる（この場合の補欠の優先順位は2番目とする）。

(4) 当該派遣選手団の選考に至らなかった次点者を、リレー種目を除くそれぞれの種目において男女各2名を派遣リザーブリスト登録者として選考する場合がある。

(5) 上記の選考基準で判断できない場合は、ワールドスケートジャパンスピード委員会の協議によって選考する。

(6) マラソン競技は選考会で選考しない。他競技において選考資格を有するもの全員を出場可能とする。ただし、男女共に16名を超えた場合、より長距離の種目から派遣選手を選考していく(トラック競技よりロード競技を優先する)。ポイントエリミネーションレースとエリミネーションレースに限っては、選考時点のナショナルコーチ、ワールドスケートジャパンスピード委員長及び強化部長の協議により決定する。

【選考大会への参加基準タイム】

レース形式のものとし、以下に設定する基準を超えた場合は日本代表選手選考会への参加を認める。

男子シニア・ジュニア

200m 19.5

500m 47.0

1000m 1'37"00

5000m 8'10"00

10000m 17'10"00

女子シニア・ジュニア

200m 21.5

500m 50.0

1000m 1'39"00

5000m 9'00"00

10000m 18'40"00

【派遣標準記録】

タイムトライアル形式で開催し、各競技1人ずつ滑走するものとする。

男子シニア・ジュニア

200m 19.0

500m 46.5

1000m 1'30"00

5000m 8'06"00

10000m 16'47"00

女子シニア・ジュニア

200m 21.0

500m 49.5

1000m 1'36"00

5000m 8'50"00

10000m 18'25"00

【ペナルティ加算】

合計点数が5点を上回った場合、次年度の選考対象から除外する。

合計点数が10点を上回った場合は、今後の選考対象から除外する。

ペナルティは次年度のみ有効とする。

- ・ 所定の提出書類の遅延(開始日を1週間を超えた場合未提出とみなす)/未提出
 - ・ 国際大会報告書(1/2)
 - ・ 他団体主催大会への参加連絡(1/2)
 - ・ 海外遠征連絡(1/2)
 - ・ 大会不参加連絡(1/2)
- ・ インラインスピードスケートに関する他団体の主催する大会への無断参加(1)
- ・ ワールドスケートジャパン主催大会への無断不参加(2)
- ・ インラインスピードスケートを理由とする他国への無断遠征(2)

例えば海外の大会に勝手に参加し、遠征願い未提出・他団体主催大会への参加未連絡・参加報告書未提出の場合は以下の計算となる

$$2 + 2 + 2 + 2 = 8$$